

令和6年度地域貢献プロジェクト事業報告書

キャンパス名 岩見沢校
代表者氏名 北爪 裕道

プロジェクト名	音響作品創作と上演を通しての教育法確立と普及
プロジェクトの概要	<p>8月6日に岩見沢校 i-Hall で開催した電子音響と器楽による演奏会「立体音響による音の杜」をゴールとして、次の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 本学学生たちが各自、音響作品を制作。8月4日より、外部講師を招いての電子音響音楽演奏法ワークショップを開催、さらに学生への演奏法個別指導を経て、6日の演奏会内で学生たちは自分の音響作品を演奏し発表した。 b. 楽器演奏と電子音響の混成による作品の演奏も、音楽文化専攻学生有志たちにより行われた。 c. この演奏会に必要な舞台設営や機材運用を学生たちに経験させた。 d. 照明・映像演出家も招いての演出も併せて経験させた。
地域・学校・子ども等に還元した成果	<p>8月4日のワークショップと6日の演奏会、それぞれに学外からの来場があり、終演後さまざまに好評の反響をいただいたが、今回、客層についてのアンケートは未実施で、岩見沢市内の本学学生以外の子どもや各学校関係者の来場があったかどうかは未確認である。今回の企画は、さまざまな音・音楽やアートに手軽に触れてもらうことのできるとても有意義な内容となったので、今後、外部での演奏会、出張授業やワークショップ、音響・舞台照明などの公開講座の開催等、地域や学校とのさまざまな連携事業に積極的につなげていく活動につなげる準備をしている。その前段階としての下地が、今回の企画で整えられたといえる。それらの普及活動を通して、文化芸術やテクノロジーに開かれた感性を育て、社会実装を目指していきたい。</p>
学生資質向上・教職資質向上のために果たした成果	<p>今回の企画に向けて本学学生 20 名が音響作品を制作、その中から 9 名が演奏会での自作発表までを行った。その他に、既存曲の電子音響演奏、楽器演奏で参加した音楽文化専攻学生が別に 9 名。これらの学生たちは、スタッフとして設営から公演当日までの運営にも携わり、自ら音と電子技術に創造的に向き合い活用する力と、音や音響とその表現についての知見を獲得した。*添付のアンケート調査の結果資料を参照 また北爪講師の担当する授業に関連して、61名の学生たちが来場し、鑑賞レポートを提出した。</p>
キャンパス及び大学への貢献	<p>今回の企画の実施により、岩見沢校各所の音響機材や i-Hall の照明および舞台装置の扱いを、学生たちに伝授することができた。これは今後の様々な事業の遂行にあたって不可欠なものであり、これらを有効的に活用できる態勢を確立し継承していくことは、今後の様々な局面において必要と思われる。同時に、外部からも周辺分野の専門家を招き公開講座によりその知見を共有する。そしてそれらを地域や教育現場等でも有効利用できる試みを企図・実践し、地域や大学全体にも貢献していく。</p>

※プロジェクトに関係する資料がある場合は、併せて提出してください。

【添付資料：参加学生へのアンケート調査結果】

事業終了後、参加学生たちに対し無記名方式で下記項目からなるアンケート調査を実施。
12名からの回答を得た。

あなたの参加したものにチェックを入れてください。（複数回答可）

	回答者1	回答者2	回答者3	回答者4	回答者5	回答者6	回答者7	回答者8	回答者9	回答者10	回答者11	回答者12
設営・運営など	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓			
演奏会への出演（演奏）	✓	✓	✓	✓		✓		✓		✓	✓	✓
自作品の制作	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓				
ワークショップを鑑賞した	✓	✓	✓	✓	✓	✓						
演奏会を鑑賞した	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		

参加しての感触はいかがでしたか？

とても満足	10名
やや満足	2名
やや不満	0名
とても不満	0名

音と技術に関する理解が深まりましたか？

とても深まった	7名
やや深まった	5名
あまり深まらなかった	0名
まったく深まらなかった	0名

音・音響による表現の可能性を感じましたか？

強く感じた	9名
ある程度感じた	3名

あまり感じなかった	0 名
まったく感じなかった	0 名

今回の経験は、教職資質の向上に役立ちましたか？

大いに役に立つ	5 名
ある程度役に立つ	3 名
どちらとも言えない	4 名
あまり役に立たない	0 名
まったく役に立たない	0 名